

委員からの提案

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
1	交付金のあり方	さすがにアルコールは原資が税金なのでどうなのかと考えたが、できる限りその柔軟性を確保して使い方を含めてオープンな手続きでやっていただくことがいいのではないかと考える。オープンな場で議論したのであれば、幅広く交付金の使途を認めていくというかたちでもいいのではないか。	嶋田	2	-
2	交付金のあり方	東京のあるスポーツセンターの事例なのだが、2億円という大きな赤字が出ている施設だったのだが、管理の契約時に自由度を上げた。一番費用がかかっていたのは温水プールのボイラー代だったので、検査を頻繁に行い、法令より厳しい基準をクリアすることを前提にしたうえで、ボイラーをどのように作動させるかは契約した会社に任せるという裁量をもたせた。そうすると会社は稼ぎたいので、ボイラーの稼働方法を工夫した。また、スポーツセンターで行っているいろいろな事業を皆で考え、特に利益が出た際の一定割合は地域の民間事業者に入るような仕掛けをしたら、2億円だった赤字が翌年度に3500万円、その翌年度は黒字になった。この事例のように、創意工夫を引き出していくようなお金の使い方を考えていかなければならない。	嶋田	2	-
3	交付金のあり方	自治会への配分はある一定の数字で交付していくが、自主事業に関しては各自治会が協力してくれた分については付けていくことができるということではないか。	嶋田	3	上西郷
4	交付金のあり方	活発に活動しているところほど、それが多ければ別個の交付金を創設するなど、頑張っている協議会にとってプラスになるような仕組みを考えていかなければいけないと思う。	嶋田	5	福間

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
5	交付金のあり方	<p>【協議会】 「売ってもらえるのか」「講習会はあるのか」という問い合わせが多数来ている。本音を言うと私たちは売りたい。しかし、売った後の売り上げのお話があるのでなかなか難しい。イベント事業や販売事業をすると活性化もするし、利益に結び付くなら活動もしやすくなって最高だよねと話している。ただし、市役所がなかなか踏み切れないという状況である。</p> <p>【会長】 その点については様々な協議会でもお話しているが、分けて考える必要がある。交付金は必要な事業をやってもらうために交付しているもので、協議会がプラスアルファの部分で努力して稼いだお金については別のものであるので、活動に使ったり収入として取り扱っても構わないと考える。収入を得ると損をするというのはおかしなことなので、そこはしっかり提言していきたい。</p> <p>販売したとしても収入が1千万円を超えてくると消費税を払わなければならないが、そこまでの規模ではないと思う。</p>	嶋田	5	神興
6	交付金のあり方	<p>協議会にどんどんお金が溜まっていて、交付金をもらい続けているとなると市民から指摘を受けてしまうことを行政側としては懸念してしまう。しかし、何もせずに交付金が蓄積されているというわけではなく、協議会としては頑張っているわけなので、逆にそれで活動に制約がかかってしまっているのであれば、それは改善していった方が良いと思う。</p> <p>100万円を超えてしまったら返金しなければならないという制約は改善した方が良い。ぜひそこは提言していきたい。</p>	嶋田	5	神興

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
7	交付金のあり方・その他（指定管理）	<p>【協議会】 市から指定管理料をいただきながら運営をしていて、剰余金がそれなりに出てきている。ところが郷づくりがコミュニティセンターを運営しているにも関わらず、その剰余金を郷づくりの方では使えないということになっている。最初に指定管理を受けた時に郷づくりの会計と指定管理の会計は別個にしてくださいと議会から要望があっているようだ。それで同じ郷づくりではあるが、指定管理側は指定管理料という形で法人として運営をしていて、本体である協議会は公益団体として交付金で運営をしている。それを一色単にしてしまうとどこまでが郷づくりの事業で運営しているのか、指定管理の剰余金を使って活動が大きくなった時に交付金にどのような影響が出るのかという細かい検証をしないといけない。</p> <p>指定管理者として何か別の事業をするために剰余金を使えば、通常の郷づくりとは別の立場として剰余金を使ったということが分かるが、一緒にしてしまうとどこまでが指定管理者としての立場なのか通常の協議会の立場なのか分からなくなってしまうので、そこを明確にするために市としても会計を分けていると聞いている。</p> <p>【会長】 それはおかしいと思う。これまでを見ていて福津市は「コミュニティは稼いではいけない」というようなイメージがある。その辺りをもう少し自由にしないといろいろな活動ができない。実現するかは分からないが、そのことはぜひ答申に入れていく。</p> <p>先ほど紹介した島根県雲南市はこのような問題についての先進地であるが、そこではそのような区別はしていない。むしろ地域で稼いでもらいながら、自立していくことが大事だと考えている。例えば温泉施設の指定管理を受けてもらって、その収入で活動してもらっている。そのような自立のための仕組みとして考えているので、会計を分けているというのは初めて伺ったパターンである。</p>	嶋田	5	宮司
8	拠点のあり方	<p>指定管理を導入すれば、許可などに関することはある程度地域に裁量が増える。もちろん条例で細かく基準を設定されて、自治会の利用は半額にするなどの対応もあるのかもしれないが、条例の目的に資する限りにおいては無料または内容について考慮した利用料で利用してもらおうように地域で基準を決めていってもらってもいいのではないかと。このように自由度を高めていく必要がある。</p>	嶋田	3	神興東

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
9	拠点のあり方	先進的なところは施設の利用はある程度柔軟に対応している。交流センターが子どもの交流や保育をする場所になっているところもある。地域には保育士免許を持っているけれども働いていない人もいるので、そのような人を引き入れることで、子どもたちが交流してにぎやかな場になっている拠点もある。	嶋田	3	神興東
10	拠点のあり方	貸館についてそもそも営利はだめという縛りがおかしいと思う。周辺に貸室があってその業務を妨害するのであれば問題であるが、そうでなければ収入の確保につながる。活動で得た収入を資金として非営利の活動に使うのであれば問題はない。NPO法人も営利活動をしてはいけないわけではなく、それを分配してはいけないということになっているだけである。そこはきちんと分けて考えるべきではないのか。郷づくり交流センターは行政施設としての発想で管理しているようだが、それだと色々な活動を制約してしまう。今後の郷づくりの在り方の見直しの中で、このような制約は外していく必要があると思う。	嶋田	3	上西郷
11	拠点のあり方	神興東郷づくりの場合は地域で教室などをやってみたいという人がいらっしやれば、なるべく部会事業として実施してほしいとお願いしている。部会事業として位置付けると、案内をしやすくなるというものもある。	奥	3	上西郷
12	拠点のあり方	施設管理は協議会に任せているが、行政の施設になっているので利用の権限がない点が問題である。利用の権限については、指定管理にすればクリアできていると思っている。	嶋田	3	上西郷
13	拠点のあり方	<p>【協議会】 申し込み方とか使用料の払い方は変えてほしい。銀行でしか使用料を納められないとか、郵便局では払えない、ネット振込もできないというのは、交流センターと言っているのであれば利用の仕組みなどは今の時代に合わせて変えていてもらいたい。</p> <p>【会長】 そのことについても答申の中にも盛り込んでいきたい。 施設の利用をもっと便利にするのであれば指定管理を導入するという方法もあると思う。何かいい方法はないか考えさせていただきたい。</p>	嶋田	5	神興

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
14	拠点のあり方	<p>【協議会】 交流センターで飲食ができないということも変えてほしい。今はコロナ禍だが、やっぱり人は一緒に飲み食いをする ことで打ち解けていくので、サロンなどをする時も飲食があると話も弾むと思うので、そのような改善もしてほしい。</p> <p>【会長】 使いにくい場所なのかもしれないが、事業などが活発になってくると交流センターに集まる意味が出てくると思うので、そのためにも今おっしゃられたようなことは解決していきたい。</p>	嶋田	5	神興
15	拠点のあり方・ 人財育成確保	中学生とのつながりの話があったが放課後に勉強できるスペースを作ると良いかもしれない。コーヒーも自由に飲んでいいなど、くつろげる空間を作ると、放課後ゆっくり勉強できる場所がなかったり、学校はあるけれども家に近い場所で勉強したいと思っている学生が集まってくると思う。	嶋田	5	神興
16	人財育成確保	若い人たちを入れるためには様々な団体が協議会に入って、ひとつにまとまっていくことが必要なのではないかと思う。自治会同士の連携だけでなく、地域の団体との連携もしっかり取り組んでいく必要があるのではないかと。	依田	2	-
17	人財育成確保	各部会や各分野で縦割りに考えないこと、むしろどうやって異なる分野をつなげていくかという視点と、イベントを通じて発掘した人材などをつながることで、次は何をするのかということを考えていくことが重要である。高齢化などが進む中、自治会だけではこれらのことを考え実践することは難しい。しかし、自治会の協力がなければ実施は難しいので、協力関係を築きながら郷づくり推進協議会が中心となって動いていくといいのではないかと。	嶋田	2	-
18	人財育成確保	複数のイベントを組み合わせると1つのイベントにして省力化を図っていかないと、地域の労力と捉えられるイベントを楽しめるものにしていく取り組みが必要なのではないか。例えば、草刈りに対話の要素を混ぜることで、高齢者しか参加しない草刈りを若者も楽しめるようにするなどである。ただ、このようなことを実施するためには高度な企画力とコーディネート能力が必要になる。	山田	2	-

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
19	人財育成確保	山形県の「きらりよしじま」の事例紹介。地域全体でNPO法人化している団体であって、まず19箇所の自治公民館の館長が地区の18歳から35歳の有望な若者を推薦し、推薦された若者は教育部の専門部に配属され、2年間地域活動に参加しながらOJTやOFF-JTの訓練を受ける。その後研究生として2年間事務局と共に地域活動の企画立案などを行い、その後事務局に参加すると共に、コーチングやファシリテーションなどの研修を受ける。マネージャーに昇格すると理事と一緒に専門的なマネジメントやマーケティング研修を受け、その後は理事として参加するという仕組みになっている。その後は地域指導員として、集落の活動に助言を行っていくことになる。つまり10何年という単位で人材を育てていくのだが、何で18歳から35歳の若者が参加するかというと、もちろん地方だから縦のつながりが強いというのがあるのだが、地方の中小企業で専門的なファシリテーションやマーケティングを学ぶことができない中で、ここに来ればそのような力を身に着けることができ、普段の仕事にも生かすことができるというメリットがあるからである。地域のリーダーを育てていく上で、この事例は究極的な姿だと思うが、そこまでいかなかったとしても地域の中で人材を発掘し、育てていくような計画みたいなものを作り、その中で自治体職員の研修生もどう育てていくのかということも考えていくといいのではないかと。中長期的にはこのような仕組みを通じて、若者たちを育てていき、企画立案を担ってもらおうというかたちを作ることができれば理想的なのではないか。	嶋田	2	-
20	人財育成確保	先進的な地域を見ていると、地域が盛り上がってくると、あそこに行けば何かできるというワクワク感が生まれてくる。そうすると若者たちが集まってくる。ちょっとお洒落なカフェなどを立ち上げる若者がターンしてきて、そこが若者たちのたまり場になってこんなのをやってみたらどうかという動きと郷づくり推進協議会が連動してくると、非常に面白い動きになってくるのではないだろうか。	嶋田	2	-
21	人財育成確保	地域の長老のかたは実はとても大事な存在である。地域で何かをしようとした時に、そのようなかたがたが地域を抑えてくれるというところがある。最近の傾向と言っているのかは分からないが、「相談役会」というかたちで自治会のかたが入り、協議会や部会に関しては若い人が入って、若い人が中心となって動けるよう裁量を強く与えていくということがある。これならば、若い人がやりたいようにやってはいるが、相談役会も承認しているというかたちを作ることができる。	嶋田	2	-

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
22	人財育成確保	最近、1ターン者を獲得していくポイントとして「関係案内所」を設ける動きが全国的に広がっている。関係案内所にはいろいろなパターンがあるが、あるところではゲストハウスを始めた元地域おこし協力隊の人たちが関係案内所を運営しているところもある。関係案内所とは簡単に言うと、地域と結び付けてくれる存在である。「こんなことをやってみたい」という人がいれば「あの人に聞いたらいいよ」とつなげてくれる場所である。関係案内所は都会と地方を結び付けて、地域に関わってくれる関係人口を増やし、うまくいけば移住につなげていくという仕掛けである。	嶋田	2	—
23	人財育成確保	女性の役員の割合を増やすとっと意見が言いやすくなるのではないかとのご意見があったが、それがすぐに難しいのであれば「女性部」みたいなものをつくって、そこで活動してみるという方法があるかもしれない。性部のイメージとしては二つある。一つは会議の場はどうしても女性が少なく意見が言いにくいので、女性部は横断的に口を出すことができるという権限を与えるというものである。女性部の中で議論していただき代表が伝えることで、その場にいらっしゃる女性が自分の意見として言うわけではないので、意見が出しやすくなる。女性部のもう一つのイメージは、女性部のかたがたが子ども食堂や地域での保育など自分たちのやりたい活動をしていくための舞台として機能させるというものである。これらの取り組みをすることで、地域の元気な女性たちをリクルートしていくということにつながるのではないかと考えられる。	嶋田	3	神興東

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
24	人財育成確保	<p>津屋崎地域には活性化部会というものがある。この部会には何かやりたいことがある人は相談して「それはいいアイデアなので応援する」ということになれば、いくらかの補助金を出すという仕組みがある。イベントの実行委員は若い人が多い。先日、音楽散歩や手づくり市というイベントがあったが、実行委員長は50代のお母さんで、実行委員も30代くらいの若い人が多い。これらの取り組みは、協議会がやりたいことを若い人が手伝うということとは逆で、協議会が若い人を応援するというかたちになっているので若い人ものびのびとやっている。音楽散歩の場合はフルートの先生がいて「私は音楽でまちづくりをしたいが、どうすればよいのだろうか」と呟いたときに、空き家をステージにして演奏会をしたらどうかと思い、活性化部会に話を持って行ったときに「相談したら貸してもらえるかもしれない」ということで、部会から声掛けをしてもらい、2、3軒の空き家で演奏会を行うことになった。演奏会をするということは、音が鳴ることで騒音になる可能性があるのが、協議会の中に自治会も入っているので、この日は音楽散歩が開催されずとお知らせができる。音楽散歩は始まって10年くらい経つが、いつまでも郷づくりの補助金に頼るわけにはいかないので、チケットを売ることになったが、今度は地元から「チケットを買わないと聞けないのか」という話が出たので、無料で聞ける場所と有料で聞く場所に分けるなどの、工夫をしながら続けている。若い人たちを応援するとなった時に協議会の役割が果たせるし、そこには自治会加入の有無も関係なく、自治会に入っていなかったとしても活動をしていくうちに自治会のことが分かってきて、自治会に入るという流れも起きているのではないかと思う。移住してきた人ほど、どんどんそのような中に入ってきてくれているような気がする。どのように地域に入っていけばいいかわからない人はたくさんいる。そのような人たちが若い人のイベントに入ることで、自治会を知り、郷づくりを知るといった流れができていると思う。個人の楽しみを皆の楽しみにするような仕掛けをつくると、地域にとっても良いし、若者たちにとっても自分たちのやりたいことができるというようなハードルの低い入口を設けてあげるといったことも重要なのではないか。それは若者だけを対象にしなくてもいいと思う。</p>	山口	3	上西郷
25	人財育成確保	<p>神興東郷づくりでは年に1回だが、校区のPTAの人たちと意見交換会を行っている。PTAとの意見交換会の時に、協議会の役員は高齢化しているので、いくつかの大きな行事に力を貸してほしい、助けてほしいと伝えている。神興東小学校ではPTA役員経験者が「けやっこサポーター」という仕組みを作った。これはPTA役員経験者が2、3年残って、学校行事や郷づくりの行事などの加勢をするものである。自治会単位だと自分のところだけになってしまうが、校区単位だともっと広い範囲になるので、PTA役員のOB会のようなものを作ってもらって、大変な時は力を貸してほしいと正直に言ってお願いしても良いのではないか。</p>	奥	3	上西郷

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
26	人財育成確保	鹿児島県の事例。自治会長が決まらないときに、不登校の高校生が手を挙げて自治会長になるということがありニュースになった。学校にあまり行っていないので、時間があるので私が自治会長になるとのことだったが、地元のお年寄りが、高校生がやると言っているのに協力しないわけにはいかないと一生懸命支えたことで地域が活性化したというものがある。	山口	4	福間南
27	人財育成確保	市内の事例で東京からパソコンが得意な人が引っ越してきた。その人は地域のデジタルスキルに関することに協力しているそうである。郷づくりに関わってほしいというよりも、「LINEで地域のことを発信したいので、手伝ってほしい」など、具体化していくことで「それであれば」ということで関わってくれる人もいるのではないかと思う。	山口	4	福間南
28	人財育成確保	R4年7月に市が未来共創センター「キッカケラボ」を立ち上げた。その中で「バスクール」という場作りの学校を開校している。バスクールの中には、高校の先生をしていて生徒に地域づくりに参加するようと言いながら、自分は地域活動に参加したことがないので申し訳なさがあり、ここを入口に地域に入りたいというかたがいた。30代の独身男性で、パソコンで仕事をしているようなかたも何人も来られた。そのような人はまちづくりに興味がなさそうな雰囲気があるのだが、今の時代はどこに住んでいてもできる仕事があることを子どもたちに伝えたいと参加し、子どもたちに新しい働き方を知るための講座や場を作るためのチャレンジをしている地域には出てこないだろうというイメージのある人がいると思うが、そのような人たちとつながっていくことで、新しいものが生まれることはあると思う。	山口	4	福間南

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
29	人財育成確保	<p>国東市では社会福祉協議会が中心となって「お困りごとアンケート」を全戸に配布し、一軒一軒尋ねていくということを行っている。全戸一人一人、中学生以上を対象にして、どのようなことで困っているのかについてアンケートを実施した。この地域のアンケートで重要な視点が困っていることに加えて「できること」も一緒に聞いたことである。「若者が参加しない」と言われるが、若い人に抵抗感があるのが地域に関わったら引きずり込まれて何でもかんでもやらされてしまうのではないかとこの恐怖感があるからである。しかし、週に1回くらいなら高齢者を病院まで送迎できるという人がいるように、限定的な関わり方ならできるような形で、できることと頻度を併せて聞いておくと担い手を見つめることができる。「その範囲だったら手伝っても構わない」という人は意外と地域にいる。例えば若い人に「3カ月に1回でもいいのでお年寄りの人たちにスマートフォン教室を開いてもらえないか」と限定的な関わりしろを設けておけば、他の地域の事例だが意外と協力してくれる人も多い。まだまだ地域の中にはインターネットを使って買い物をしたり、LINEを使って情報を得たりすることに抵抗感がある人が多い。しかし、使い方を教えてもらえるなら使ってみようという人もいると思う。ニーズ調査をすることで「移動に困っている」「スマートフォンの使い方を知りたい」という地域の困りごとを把握し、できることを調査することで両者のマッチングが可能になる。</p>	嶋田	5	福間
30	人財育成確保	<p>若者が来ないのであれば、若者のところに行ったらいいのではないだろうか。若者のいろいろな団体があると思うので、協議会の代表者などがそこに出向いてインタビューなどをして、その中で「地域に関わってもらえないか」「このようなことならできる」といったやり取りをして、広報の機会を活動に巻き込む機会にしてネットワークを作ればいいのではないだろうか。ネットワークは大変重要であり、特定の個人個人を集めるよりもネットワークを広げていく方が有効なのではないかと思う。</p>	嶋田	5	福間
31	人財育成確保	<p>これまで地域活動と言えば「何かをしなければならない」というmustの考え方が多かったと思うが、若者も含め今は余裕のない時代なので「しなければならない」となるとしんどくなってしまふ。若い人もやる気がないわけではないし、やりたいことはたくさんあるし、自分ができることをやって他の人から承認されたいという思いを持っている。だからこれからの地域は「やってみよう」というwillや「できる」というcanの気持ちも受け入れていくような枠組を作っていく必要があると思う。</p> <p>ここで大切なのは受け入れ方である。地域はよく「若者に来てください」というのだが、来てもらったなら何を期待するかというと「今自分たちがやっていることをしてほしい」と言う。これだと若者は困ってしまう。むしろ若者たちがやりたいことを受け入れてあげる。やりたいことを拒否してしまつてはいけない。</p>	嶋田	5	福間

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
32	人財育成確保	近年、若者が流失して帰ってこない様々な自治体が悩んでいるのだが、島根県は全国の自治体の中で唯一高校を卒業してどこに行っているのかという情報を持っている。そのため、Uターンしてほしいという情報などを出すことができる。島根県のようなネットワークを持っておくことが大事である。	嶋田	5	福間
33	人財育成確保	「葉っぱビジネス」で有名な徳島県の上勝町では、いろいろな形でインターンを引き受けている。インターンに来る人はいろいろなところに行って品定めをしているので、必ずしも定着するとは限らないのだが、10人来たとしたらその人たちが地域の人たちと仲良くなるだけでなく、この10人を徹底的に仲良くさせた上で、そのネットワークに「こんなことをやっている」「こんなことで困っている」などの情報を流している。そこに「10人のインターンのうち1人がUターンやIターンで帰ってきました」という情報を流すと「あの人が帰ってきたのなら面白いことができるかもしれない」と連動して帰ってくることもある。そういったやり方もある。せっかくここまでやっていらっしゃるので、次の世代に引き継いでいくためにも人材をプールしておくことやつながっておくこと、投げかけをして地域のことを意識するような仕掛けを作っておくことが重要だと思う。	嶋田	5	福間
34	人財育成確保	「バスクール」では何かをやってみたいという個人がチームを組んでいろいろなイベントを仕掛けている。その中のグループのひとつに職場の悩みを語り合うような機会を設定して、人々がつながり合う場づくりに挑戦しているところがあったが、このような発想はなかなか地域からは出てこない。そのような場を作って集まりたいという人は、地域に関心がないわけではなくてむしろ関心がある人たちである。今後はそのような場でリクルートしたりマッチングしたりすると考えていくといいのではないかな。	嶋田	5	福間
35	人財育成確保	「これまでのメンバーから新しいメンバーになっていかないと」という考え方もあるが「何かやってみようか、面白くしていこうか」と考えた時に「自分たちだけではできない」となれば、どこかで誰かを見つけて行ってネットワークを使ってやるという方向に必然的になっていくはずである。つまり、これまでと違ったことをやろうとすると必然的に外とつながっていくことが必要になるので、そうすることで新しい風が吹いていくことになると思う。	嶋田	5	福間

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
36	人財育成確保	<p>多くの人が集まって、さまざまな事業もやられていてすごいと思うのだが、これを次につなげていく取り組みをすると良いのではないかと。</p> <p>例えばイベントに来てくださったかたにLINEの登録をしてもらって応援部隊になってもらったり「何かいっしょにやりませんか」「良いアイデアはありませんか」「次はこんなイベントをするので来ませんか」といった声掛けをしたり、あるいはグループを作っている人たちに協議会として応援するので一緒に活動してみないかなどのネットワークづくりにつなげていけると良いのではないかと。その場にだけ来て盛り上がり楽しい時間を過ごしてもらうことも良いと思うが、その後につなげていくことを考えていかれるとさらに良いのではないかと。</p>	嶋田	5	宮司
37	人財育成確保	<p>LINEの導入は若い人が関わった方がやりやすいので、この部分だけでいいので助けてくれないかということを書いて、関わりしろを作ると良いのではないかと。若い人は地域活動に関わってしまうと引きずり込まれて、いろいろな仕事をさせられてしまうと思うので怖くなってしまふ。そこで、この部分だけで限定的に関わってくれたらいいと安心感を与えることが重要であると思う。</p>	嶋田	5	宮司
38	人財育成確保	<p>対話の場というのを公式に設けるのは難しいので、お話にあったように協議会の活動に参加してくれたかたと交流するというのも一つの方法である。もう一つの方法として、各団体が行っているイベントに協議会からアプローチしていくという方法があると考えている。</p> <p>宮司コミュニティセンターで開催されたバスケットの発表会を見学したのだが、このような場に来られるかたとは普段なかなか接点はない感じがするが、普段会えないからこそ、そこにアプローチしていったら仲良くなって、イベントに参加してみてネットワークを広げていくという方法もあるのではないだろうか。</p>	嶋田	5	宮司
39	人財育成確保	<p>SNSも広がりにくいと個人的には思っている。全く面倒がなければイベントがあれば行くということはあるかもしれないが、手間がかかるということであれば、人間関係の中でつながっていかないと、なかなか人は実際に来てくれない。特定の人と出会って、その人のネットワークの中に入り込んでつながっていくという方法が一番有効だと思う。一般的に商業チラシは千枚配っても見てくれる人は1パーセントと言われている。では、そのチラシを見てきてくれる人はどのくらいなのかという話になってくる。SNSは手軽で効果的だと思うかもしれないが、確実性はかなり低いので直接対面で会ってつながっていくことが良いと思う。</p>	嶋田	5	宮司

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
40	人財育成確保	<p>まずは「お話をうかがってもよろしいですか」と、団体さんの活動に協議会が参加して、その中で協議会の話も聞いてもらうという関係性をつくると良いのではないかと思う。</p> <p>関係性を作らずに協議会に関わってほしいという、あそこに行くときずり込まれるという話になりかねないので、協議会側が参加して親しくなっていくのが良い方法だと思う。</p>	嶋田	5	宮司
41	人財育成確保	<p>一つの事例だが、藤沢市というところで若い人と高齢者で交換日記をしているというものがある。</p> <p>今、地域のかたが一生懸命活動を頑張っているということで、そこに子どもを巻き込むのも方法だと思う。</p> <p>一人暮らしの高齢者を4、5人で見ておられるということだが、その人数だけだと大変なので、そのうちの1人くらいは小学生にして交換日記として関わってもらってもいいかと思われる。そんなに頻度は無くてもいいと思うが、1週間に1回くらい交換日記をしてもらって、それをしながら見守りをしていくなど、いろいろな可能性があるのではないかと思う。むしろ現場での活動だからこそ、いろいろな可能性が広がっていると思っている。</p>	嶋田	5	宮司
42	人財育成確保	<p>島根県雲南市では「やってみたい」という気持ちを受け入れる人の仕組みとして「地域おせっかい会議」というものがある。例えば、編み物が得意なおばあさんがいるのだが、誰もそのことは知らない、けれどもそのことをたまたま知った人が「このことを多くの人に知ってもらいたい、そうすることでおばあさんも生き生きしてもっと元気になる」と思ったら、地域おせっかい会議の場に「編み物が得意なおばあさんのことを皆に紹介して、おばあさんも生き生きできる場をつくりたいのだが、誰に相談したらいいか」と声を掛けると、そこが声掛けをして「どのようなことをやったらそのおばあさんが輝くのだろうか」とアイデアを出してくれる。そして、最初におせっかいをしようと思った人が「今日はたくさんのかたから良いアイデアをいただいたので、これをやってみる」と最初の一步を踏み出すための宣言をする。それを踏まえて「このようなイベントをする」ということになれば、その場に来た人が協力してくれるので、そのおばあさんが幸せになるという仕組みになっている。</p> <p>地域おせっかい会議のような取り組みは、必ずしもしなければならないことではないかもしれないが、地域の人たちが幸せになっていって地域が盛り上がっていく、そのようなことをやってみたいと思っている人を受け入れる入り口にもなる。</p> <p>島根県雲南市の取り組みも協議会とは別個にそういったことをやってくれる組織がある。そういったことをやってくれる団体などどのように結びついていくのかということが重要である。</p>	嶋田	5	宮司

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
43	人財育成確保	<p>長崎市では「どのような団体があってどのようなことができるのか」というリストを作って、マッチングする仕組みを作っている。</p> <p>福津市も未来共創センターを立ち上げているが、そこが中核となって「どの団体がどのようなことができるか」というリストを作り、そのリストを協議会が活用し、つながりたい団体があれば、センターに調整してもらいマッチングしてもらうという仕組みができればいいのではないかと。ただマッチングをして「あとは協議会で自由にやってください」というのは無責任なので、間に入って結びつけながらやっていけたら良いのではないかと。思う。</p> <p>全てを協議会だけで完結してやっていくことは非常に難しいので、いろいろな団体と結びついていくことが必要である。</p> <p>バスケットでも、4つのグループが発表していたが、このようなかたがたも普段はなかなか出会うことはないで、そのような人たちと結びついていくいろいろな可能性が出てくると思う。ぜひ、協議会にはネットワークを広げていていただきたいと思う。その仕掛けづくりを私たちも答申の中で提言していきたい。</p>	嶋田	5	宮司
44	人財育成確保	<p>共働推進会議としての観点からは、普段コミュニティ活動に関わっていない人を2つのルートから関わってもらうという方法があると思っている。</p> <p>一つは子ども食堂などの取り組みはNPO系というか、テーマ性がある問題意識を持ったかたが関わってくれるし、地域の人も関わりやすいので非常に意味のある取り組みだと思ふ。</p>	嶋田	5	神興
45	人財育成確保	<p>もう一つの人材確保の取り組みはスマートフォンなどのデジタル系のルートである。このようなことに取り組みたいと思っても、協議会ではなかなか難しくできないので「そこだけでいいので関わってほしい」と限定的にお願いができるテーマである。</p>	嶋田	5	神興
46	人財育成確保	<p>これは私が関わっている大分県のある事例なのだが、住民アンケートをとって一番多かったのが「カフェなどの集まる場が欲しい」その次が「移動支援」だった。3番目が「スマホ教室」だった。一方で若者たちにできることを聞くと「たまに病院に送迎する移動支援くらいなら構わない」や「簡単なことからスマホ教室をするくらいならできる」というものだった。そういった形でお互いをマッチングできる。</p> <p>どこで聞いても「人手が足りない」ということなので、そのような状況だからこそ関わってもらいやすいということもあると思うので、そのような工夫をされていくといいのではないかと。</p>	嶋田	5	神興

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
47	人財育成確保	<p>【協議会】 小学生や中学生、高校生、大学生でもいいけれども子どもの人材バンクを作っていけたらいいのではないかと考えている。例えば大学生が夏休みに帰省した時に勉強を教えるなど、そのような取り組みができればいいのではないかと考えている。</p> <p>【会長】 若者の人材バンクというのはとても重要な発想だと思う。 小学生や中学生、高校生と関わっていく中でLINEなどの形で登録してもらって、何か困ったことや協力してほしいことがあれば、そこに投げかけられるという状態を作っておくということが大切である。 最近の若い人たちは自分に自信のない人が多く、承認欲求がすごく高い。だから他の人に頼まれると「協力してもいいよ」と言ってくれる人がいる。その子どもたちが大学などで地域を離れたとしても、「今こんなことが起きているよ」「今こんな面白いことになっているよ」とこの地域の情報を伝えることなど、つながり続けることが大事である。 島根県ではその取り組みを行っているので、Uターン施策に取り組みやすくなっている。他の都道府県では高校を卒業したらどこに誰が行っているのか情報を持っていないし、連絡先も知らないなので取り組みがしにくい。連絡先を知ってつながっておくということは本当に意味のあることだと思う。</p>	嶋田	5	神興
48	人財育成確保	<p>若い人とつながるきっかけをつくるのは重要だと思う。 大学には子どもたちに勉強を教える活動をしているサークルもあるので、そのような学生に夏休みに来てもらうのもいいかもしれない。そうすると中学生もここに来るきっかけができると思う。 大学には産学官連携センターのような組織があるので、そのようなところともつながっていくと良いのではないかと。または個人としてもつながっていくといいのではないかと。</p>	嶋田	5	神興
49	人財育成確保	<p>これはよく社会福祉の世界で言われることなのだが「イエス&バット」ということで「そうだよ。それはすごいよ」と認めてあげた上で「ではどうするか」という時に、いろいろなことをやってみようといううちの良い部分をピックアップしていく必要がある。 例えば、ジャズをやってみようという若者がいたら「とても良いアイデアだと思う。でもジャズは難しいかもしれないから、音楽という観点でやってみてはどうだろうか」と、相手のやりたいことを認めつつ、地域に合うように軌道修正するというような作法を実践されると非常にいいのではないかとと思う。</p>	嶋田	5	神興

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
50	人財育成確保	地域によっては、SNSの利用方法がよく分からないので若い人に教えてもらうことで若い世代とつながる良い機会になるということで、若者と交流するためのツールとしても活用しているところがある。私たちの世代にとっては難しいことでも、若い人にとっては簡単なことで、その程度だったら協力しても構わないという人はいる。若い人は一回、協議会等の活動に関わってしまうと引きずり込まれるという恐怖感がある。しかし、役割を限定して関わってほしいという関わりやすくなり、SNSはそのきっかけにしやすいのでぜひご検討いただきたい。	嶋田	6	勝浦
51	人財育成確保	福津市は人口が増えているというイメージで全てを見てしまうと判断を誤ってしまう可能性がある。人口は増えているけど、無関心層が増えているケースと関心は強いけれども人口が減っているケースでは物事の考え方が違うはずなので、そこを同じように考えないようにすることが大事なのではないか。関心層を増やすということについては何か取組みを知る必要があると思う。また、郷づくりがすることではないかもしれないが、地域おこし協力隊を活用するなど、様々な部署が連携しながら人口を増やす取組みも必要なのではないか。	山口	6	-
52	人財育成確保	地域にいらっしゃる人たちの関心を高めるだけでなく、外部の人たちにも活動に関わっていただくことの必要性が高まっていて、それが郷づくりの活性化の突破口になるのではないかと考える。全体的な関心を高めていくためには地道な活動が必要だが、地域の活動に興味を持っている人もいると思うので、そのような人を見つけたり、つなげたりすることができるのではないかと考える。	中川	6	-
53	人財育成確保	郷育カレッジも未来共働センターも「出口」を考えないといけないのではないかと考える。様々な自治体で起業セミナーなどを開催しているが、出口を用意していない。起業であれば、シェアリングでお店を半年間借りられるといった出口のサポートが必要である。例えば、パン屋をやってみたい人が半年間お試しでお店を借りることができると、そこでお客さんがいたら安心して独立することができる。他にも月に何回かマルシェで売り場を設けたり、商品のPRを行ったりするような出口の支援が必要である。人材育成も同じで、その人がやりたいことと地域の希望をマッチングさせて、人が活躍できる場をいかに作っていくのかということが重要である。例えば委託の場を作るなど、何かを考えていかないとせっかく育った人材が活かされなくなってしまう。	嶋田	6	-
54	人財育成確保・ 拠点のあり方	指定管理者を入れていくことによって、交流センターの使い勝手も良くなるのではないかと考える。指定管理を入れてスタッフの雇用経費を確保していくことで、専門的な人材を確保しやすくなるのではないかと考える。	嶋田	4	福間南

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
55	人財育成確保・ その他（活動）	自治会の行事や事業については加入者だけに限定して構わないと思うが、郷づくりに関していえばそうではないのではないか。最初から義務感や責任感を持っている若者はどんどん減っている風潮があるので、その原理で動いていくと活動が縮小していってしまう。若者の変化にも対応していかなければならないこともあると思う。最初は楽しいことから入って行って、そこで人間関係ができてくる中で「この人たちのために頑張っていこう」と思ってもらうルートしかないのではないかなと思う。例えば、活動説明にあった川遊びでもいいと思う。川遊びに参加してみたいという人は多いと思うので、そういうところから入ってもらって、できることを聞いて、地域に関わってもらおうといったように一歩一歩進めていく必要があるのではないだろうか。	嶋田	3	上西郷
56	人財育成確保・ その他（活動）	役員負担についてお勧めしているのは「業務の棚卸し」をしていくことである。ある地域ではすごく有能な会長がいるのだが「とてもあんなことはできない」ということになり、すごい人だから逆に後継者がいなくなっているということが起きている。役員がやっている仕事を洗い出して、不要なものをなくしたり、他の人にお願いできることは振っていったりするなどの整理を行い、会長がやる仕事を限定化していくことが重要である。会長になることで責任が無限なることを皆恐れているのであって、有限責任にすることで不安を解消していく必要がある。そうした「棚卸し」は自治会と協議会との関係においても重要であり、自治会と協議会の会議が重複するのであれば、それぞれの会議を同じ日に済ませるといった業務の重ね合わせなど、いろいろな工夫をしていくことが必要であると思う。	嶋田	4	福間南

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
57	人財育成確保・ その他（活動）	<p>神奈川県の実鶴町では、地域住民に地域づくりの機運が高まっていかないということで「実鶴カメラ」という取り組みが始まった。「実鶴カメラ」はメーカーからカメラ10台を無償で貸してもらい、住民10人で1チームを組んでもらって、地域の地場産業に関わっているかたや農業のかた、地域づくりに取り組んでいるかたのところに行ってもらって風景の写真を撮って話を聞くというものである。写真を撮った後は、皆で集まって、全国の専門家とズームなどでつないで写真の論評をしてもらっている。その場には取材を受けた人にも来てもらって、自分がどのように見られているのかということを知ることができる。その場ではいろいろな人から「すごい」と言ってもらえるので、自分たちの活動や生業の意味をそこで改めて気が付くことができるし、取材をした側も「こんなにすごい人たちがいるのだ」ということに気が付く。それに気が付くことで、普段何気なく通り過ぎていた商店街のお店でも、そこのお店のおでんの背景を知ることによってファンになり、そこを目掛けて人が集まってきて人だかりができるので、他の人たちも集まって来るという流れができる。カメラや動画を使って人と人をつないで、お互いに勇気をもらい合うような取組はいろいろなところで行われつつあるのだが、これを地域で始めるのはなかなか難しいと思うので、大学にあるカメラ部やサークルなどと連携していくと良いのではないだろうか。地域の良い所やすごい人の所を訪ね歩くのは若い人も参加しやすいと思うので、関心を持ってもらえる可能性が高い。そのような活動を通じて、多くの人に活動の意味を伝えられたら良いのではないかなと思う。高齢化が進んでいき活動が難しくなっていく中で、外部の人たちを捕まえて、一緒になって何かをやっている仕組ができると良いのではないかなと思う。</p>	嶋田	6	勝浦
58	人財育成確保・ その他（認知度）	<p>広報の方法として、広報紙を配布するよりもLINEなどを活用してプッシュで送っていくということがある。コロナ禍で広報紙がなかなか配れない時に電子化を図っていくことがあると思うが、最近の若い人はホームページもなかなか見ず、LINEのようなSNSを活用することが多い。最近ではコミュニティ関連の取り組みで、若者の力を借りるということが出てきている。広報の活動を通じて、若者とつながっていく方法を模索しているところも多い。高校生や大学生に関わってもらってLINEを取り入れて、自治会長の協力もいただきながら、もしもの時の防災情報を出したりするの登録してほしいと登録者を増やしていき、広報紙もそこに送ることで見てくれる人が増えると思う。</p>	嶋田	4	福間南
59	人財育成確保・ その他（認知度）	<p>広報紙にはコンテンツの工夫も重要だと思う。埼玉県の実芳町は広報紙で有名な自治体なのだが、その広報紙には地域の子どもが登場するので、祖父母が周りの人に自慢したいので紹介して回ることが起きている。広報紙に人の顔が写っていて、それを人が周りに自慢していくような仕組みにしていこうと良いのではないかなと思う。その時に、高校生などの学生の力を借りて、取材をしてもらうことで話題性も生まれ、LINEなどと併用するとかなり見てくれるようになるのではないかなと思う。</p>	嶋田	4	福間南

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
60	人財育成確保・ その他（認知度）	<p>広報紙に写真をたくさん掲載しておられるが、動画も掲載してみたいか。YouTubeに載せた動画のリンクを貼るという方法でもいいと思う。長崎県の東彼杵町では、協力してほしい団体や地域の人に地域への思いや活動への思いなどをインタビューして動画にしている。動画になって公開されていることで手伝わないといけないような雰囲気になるし、活動に巻き込むきっかけにもなる。YouTubeにリンクを貼ることで、協議会へのホームページを見るきっかけにもなる。</p>	嶋田	5	福間
61	人財育成確保・ その他（認知度）	<p>長崎県にある東彼杵町では協力してほしいところや連携したい団体や地域の人に地域への思いやどういったことについて関わってくれるかについてインタビューしてYouTubeにアップしている。動画になって公開されていることで手伝わないといけないような雰囲気になるし、やらなければならないという気持ちになる。動画を活用した形でコミットメントを高めていくと同時に、関係者が動画を見に来るので、広報をするきっかけになる。</p> <p>SNSの活動だけではなくホームページに動画をアップするという方策もある。自分の知り合いがしゃべっている動画があると見たい。ホームページに写真をたくさんアップされていることも良いと思うが、そういった形で動画を作り、リンクを貼るということをされるとさらに良いのではないだろうか。</p>	嶋田	5	宮司
62	人財育成確保・ その他（理念）	<p>自治会は今ある人のつながりを強めていくという面があると思うが、協議会はこれまでつながりをつくってこなかった人たちを含めてつながっていくという面があると思う。これが暮らしの安心をつくり出し、プラスアルファの楽しさみたいなものをつくり出していくのではないだろうか。楽しさをつくっていくということは、いろいろなところとつながりながら、そこに若い人たちが入ってくることで、盛り上がっていくことで実現できると思う。</p>	嶋田	3	神興東
63	市の関わり	<p>地域担当職員について地域と行政の間で協定を結んでおいて、どこからどこまでを行政がやるのか、地域でやるのかという分担を決めておかないと、本来、地域でやるべきことが地域担当職員に降りてくることになりかねない。</p>	嶋田	2	—

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
64	市の関わり	研修職員は、市役所業務を優先した上で「余力があれば」地域の活動に参加するというのは漠然としているので、その点を厳密にやってみることも一つの方法かもしれない。お勧めしているのは、研修職員を地域で育てていただくという意識を地域のかたに持ってもらうことである。住民の人たちに職員を地域でどのように育てていくかということを考えていただくことで、職員を使うのではなく伸ばしていくという意識が地域に生まれ、若手職員も地域に育てていただいたという感謝が生まれ、地域のことに向向きに取り組むようになる。	嶋田	2	—
65	市の関わり	郷づくりの研修などを全職員にきちんとできているのかという問題がある。地域に関わっている研修職員や地域担当職員は郷づくりを理解しているとしても、その他の職員がどのくらい理解しているのが重要である。	嶋田	2	—
66	市の関わり	「地域おこし協力隊」の状況として「とりあえず現場に来てください」とか「困っているので来てください」といった募集の仕方だと、協力隊の人は何をやればいいのか分からなくなる。すると業務も雑用のようなことばかりになってしまい「こんなはずではなかった」ということになり、協力隊の人がいなくなってしまうことにつながる。	嶋田	2	—
67	市の関わり	民間組織である協議会に、行政が入り込んでしまうと、両者の境界線がおかしくなってしまうところがあるので、市の職員が協議会の事務局員になるのは難しいと思う。	嶋田	4	福間南
68	市の関わり	コロナに伴う拠点閉館の判断など、地域が判断しにくいことに関しては市が責任を持って一定の方針を示す必要がある。方針を決める際は一方的に市が決めるのではなく、各地域の声を聞きながら、県の指示などではなくて市としてしっかり判断していくという仕掛けを、コロナ禍をきっかけにもう少し作っていくことが必要なのではないか。	嶋田	4	福間南

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
69	市の関わり	<p>個人情報、個人が出しても構わないと言わない限り出してはいけないというルールだが、新潟の三条市などが有名だが、個人情報は原則出すが、出してほしくない人は市に連絡するというルールを作るという方法もある。それによって連絡があった人については個人情報を出さないが、連絡がなかった人については情報を共有するというのを条例などでルール化していけば可能なので、そのような対応を市に考えてもらうことは大事だと思う。個人情報の扱いについて、条例できちんと定めることができれば、法的にも耐えられると思う。災害対策としての個人情報の提供についてはルール化した上で、個人情報を出したくないという人がいれば、直接市がその人のところに向いて行って災害時は大丈夫か確認し、自治会には出したらどう対応してもらうかなどを提案の形で話を持っていくのがベストだと思う。</p>	嶋田	4	福間南
70	市の関わり	<p>権限移譲の程度や、どこまでが自分たちで動けるのかということが現場でもはっきり分かるような形にするには、対話の度合いが重要であると思う。対話をすることで、動かさないことがあればそのことについて理解を得られることもあると思うので、その辺りがポイントになるのではないかな。</p>	山田	4	福間南
71	市の関わり	<p>地域にやらされ感が出ないようにするには、対話を通じて地域の声を行政が踏まえた上でやっていくことが必要だと思う。そうすれば、やらされ感はないと思う。ルールはルールだから守ってほしいということは、現場に対するシンパシーがあれば、どうやったらルールを変えることができるかと考えるようになるが、現場との関わりが薄ければ、そのような考えに至らない場面が多いのではないかと感じた。</p>	嶋田	4	福間南
72	市の関わり	<p>施策においてどこからどこまでを市がやるのかということははっきりさせておかなければならないが、郷づくりの目的は地域の人たちの中で議論して方向性を考えていくことも必要で、市が全てを語ってしまうと協議会が市の下請け機関のようになってしまうのでそれは避けたいと考えている。それを避けるためには大まかな方向性は市が示し、役割分担を決める時に、地域の声もしっかり反映されることが大事であって、そうすることで計画づくりの中で「ここまでは市がやる」「ここまでは地域がやる」「ここまでは個人がやる」とすることが必要である。</p>	嶋田	4	津屋崎

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
73	市の関わり	人材や担い手の問題については協議会だけでは手に負えないことなのかもしれない。郷づくり間のネットワークや全市的な取組で対応していくことが必要なのではないか。各郷づくりの良い取組、いわゆるグッドプラクティスを共有できるような場があると良いのではないだろうか。	山田	6	—
74	市の関わり	地域ごとにパターンが異なるので、多様性を許容していく制度設計が必要ではないだろうか。ただし、「活動の自由度を高めていく」ということは共通して必要なのではないか。 また先ほど「グッドプラクティス」のお話が出てきたが、単に全体に広げて活動の底上げをするだけでなく、各協議会が「この仕組みは私たちが開発した」という誇りを持っていると思うので、それを評価していくような仕掛けが必要なのではないか。それがプライドにつながっていくのではないか。	嶋田	6	—
75	市の関わり	福津市に足りないことは情報をきちんと伝えるということなのではないかと思う。各課で「この地域の介護保険の状況はこうですよ」などの行政しか持っていない情報を提供していくことで、地域の状況が見えてくることもあると思う。高齢化率などはすぐに分かると思うが、多様な地域のデータを提供することで、地域がいろいろなことを考えることができるし、活動に優先順位を付けることができるのではないかと思う。 いきなり「自由にやってくださいね」と地域住民に話し合いをさせるのは一番まずいパターンである。材料もないのに話してくださいと言われても何を話せば良いか分からず議論にならないか、実現不可能な夢物語を話して終わりということもある。また、その場に参加できない人もいる。このようなことにならないようにお勧めしていることは、行政側が持っている高齢化率や介護保険などに関する様々なデータを用意することや、中学生以上の住民全員にアンケートを行うなど「地域カルテ」と呼ばれる地域の状況をしっかり把握することである。それをもとに何が必要なのかを考えていただくという流れが重要である。市が地域の人たちに活動について考えてもらうための素材をしっかりと提供することや「このような方法がある」という具体例をもっと示すべきだと思う。郷づくりの制度設計に際し、やねだん地域を参考にしたとのことであるが、いろいろな地域で様々な取組みが広がっている中で、そのような事例を知ると活動の参考になると思うので、入り口の段階でしっかり情報を伝えることが重要である。しっかりやっている地域では、毎年一定のアンケートをとって地域の「見える化」を行っている。それを公表することで、地域ごとに現状を把握することができる。ただし、進捗度合いは協議会によって異なる。例えば「組織がしっかりできていない」ということであれば、そこは担当職員がフォローしていくことが必要である。このように協議会の状況や進捗状況に応じたバックアップをやっていくということが重要である。	嶋田	6	—

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
76	市の関わり	<p>これは地域担当職員がどのようにサポートしていくかということにもつながっていく。これまでの地域担当職員は漠然とした形で地域に入っていたので、地域からいろいろなことを頼まれてしまう。そこで、多くの自治体では地域と協定を結び、対応する範囲を決めているところもあり、それもひとつの方法である。ただし、バックアップの内容は画一的にやるのではなくて、進捗度合いに応じて行うべきである。例えば守りの部分はある程度しっかりできているので、プラスアルファのことをやってみたいということであれば、他の団体などつなぐといったことが必要になる。段階によって、バックアップする内容は違ってくるのではないかと。そこを明らかにするためにも、縦軸と横軸のグラフを作り、市から求められていることで既に達成していることとそうでないこと、プラスアルファの部分で地域がやりたいこと、やっていないことについてそれぞれの地域がどこにあるのかということ把握する必要がある。そして、それぞれの地域が現在どのような状態にあるのかを把握し、市も地域の状況に応じたバックアップをやっていくということが必要で、一様の対応を取っていくわけではないということをお願いしなければならない。このように地域担当職員制度をしっかり整えていく必要がある。</p>	嶋田	6	-
77	市の関わり	<p>自慢大会についてはすごく大事な場であると考えている。自慢大会を行うのであれば、オープンな場で市民も参加できるようにして、可能なら子どもたちにも参加してもらって意見をもらうような形にはいかがだろうか。このような場を設けて、市民に活動を広く知ってもらおうと共に、それぞれの協議会がお互いの活動を認め合い、良い活動は横展開していくような仕組みができると良いのではないかと。そのような仕掛けをしっかりやっていくことが重要だと思う。また、「できれば良いよね」という希望的観測で終わるのではなく、タイムリミットを決めて取り組むことも重要である。押し付けになってはいけないが、やってほしいことについては交付金とは別にインセンティブを与えて取り組んでもらうといった仕掛けが必要なのではないかと。勝浦のカレンダーの取組みのように、市としても横展開していきたい事業があれば、押し付けにならないようにしつつも「このようにやると良いですよ」とやってほしいことを明確に協議会へ伝えることが必要であると考えている。場合によっては、事業が進んでくれば会計事務についてのバックアップが必要になってくると考えるが、これまでとは逆の考え方で、市が積極的に協議会のバックアップを進めていかなければならないのではないかと。市がバックアップしていくことで、協議会のできることで増えていくのではないかと考える。</p>	嶋田	6	-

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
78	市の関わり	地域担当職員の在り方を整えていくことが必要なのかもしれない。特に研修職員は積極的に地域に出ていく必要があると思う。部課長級の地域担当職員は時間外手当が出ないので、アドバイスしてもらうことを役割の中心にするなど必要なのではないかな。	嶋田	6	-
79	市の関わり	地域担当職員は年間のべ何回参加できるということを示してもらった方が協議会としてもお願いしやすい。本当は協議会のことは協議会で解決すべきだと思っているので、お手伝い要員としてお願いするのは地域担当職員の役割ではないような気がする。どちらかという市とは関係なく、地域にお住いの職員のかたにボランティアとして関わってほしいが、そのようなかたはなかなか参加しない。	奥	6	-
80	市の関わり	地域担当職員の制度についてはもっと強化していくことが必要かもしれない。また、地域に住んでいる職員が協議会に関わらないということも問題なのかもしれない。イベントの手伝いよりも、人と人をつなげる方が役所の職員としての役割なのではないかな。	嶋田	6	-
81	その他（活動）	「これからどう面白くしていくか」という視点を増やすと、もっと素晴らしいものになると感じた。例えば、私の教え子で鹿児島県の日置市の市長をしている者がいるのだが、彼が考え出したものがある。日置市では桜島の火山灰の清掃が大変という課題が挙がっていたのだが、彼は「スポーツ灰集め」というイベントを考え出した。これはチームを作って時間内にどれだけ火山灰を集めるのか勝負をするものである。このイベントは若者も含めて、皆真剣にやっていたそうである。このようなことをやろうとすると自治会や町内会だけではできないので、郷づくり推進協議会が主体となりNPOと連携したり、学生に声を掛けたりして、イベントを通じて地域に関わってもらって若者を増やすことで、地域がより面白くなってくると思う。また、集まってくれた人とどのようにつながって、どのように今後の事業を展開していくのかという話にもつながっていくのではないかな。	嶋田	2	-

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
82	その他（活動）	各部会ごと、各分野ごとで、縦割りになっている部分もあるのではないだろうか。例えば、環境・景観の分野で松林の清掃を「スポーツ灰集め」のような仕掛けを通じて活性化分野につなげていくこともできるのではないか。自治会や町内会ではこのようなイベントを思いついても実現しにくいかもしれないが、それを様々な団体と連携して実施できるのが郷づくり推進協議会の強みなのではないか。郷づくり推進協議会の取り組みのキーワードになるのは「面白く楽しくする」と「次を考えていく（次につなげていく）」ということなのではないか。	嶋田	2	-
83	その他（活動）	昔ながらの地域のお祭りで小さなアクセサリなどを売るフリーマーケットなどのイベントを組み合わせていきながら、そこで売り上げが1日1万4千円を超えてくるぐらいの規模になると、お店を持ってやるということが可能になるかもしれない。その場合、大きな規模ではないので、リノベーションした空き家を1区画30㎡として月1万5千円で貸し出せば、少し稼ぐことができるか試してみたいと思う人が出てくるかもしれない。なおかつ、30㎡ではなく3㎡を10区画という貸し出し方をすると面白い人たちが集まってきて、その建物が空き家で寂しかったものが、若い人たちがアイデアを出して面白いことをやっている集まりの場となり、そこが拠点となって、近くにカフェができるなどある種の流れができるかもしれない。郷づくり推進協議会もこのようなことをイメージしながら、イベントを行う時に仕掛けを作って、その場を通じてチャレンジしたい若者とつながっていくようなことができればいいのではないか。	嶋田	2	-
84	その他（活動）	高知県の田舎でお母さんたちがお弁当を作っているのだが、数が出なくて採算が合わないということで困っていた。しかし、これは可能性のある事業である。例えば1食500円だとしたら100食出れば5万円になるが、1日3人で作れば1万円を超えるお金が入ってくることになる。では100食を得るためにどうするかというと、自治会と協力して一人暮らしでなかなか食事の取れない人と地域で配達してくれる人を探して、500円に配達料の100円を上乗せしたとする。そうすると地域で10軒配達したとすれば、配達料が100円×10軒、即ち時給1,000円の仕事が生まれることになり、地域の個食の解消にもつながるし、なおかつお母さんたちの採算も取れることになる。このように「食」というものは地域を活性化していく重要なポイントになる。	嶋田	3	神興東

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
85	その他（活動）	<p>筍が2～3メートルになった時に、夕方くらいに腰くらいの高さの所を切って、きれいなごみ袋を被せ、きつく縛っておいて翌朝行くと、袋の中に竹が地面から吸い上げた水が溜まっている。取りたてのものにはごみが入っているので、コーヒーのろ過をするようなものでそれを除去すると純粋な竹水になる。これはそのままだと不味くて飲めないのだが、一晩冷蔵庫に入れて置いておくと味が変わる。</p> <p>竹水は水が近くに流れている所ではたくさん取れるが、場所によっては微々たる量しか取れないところもある。</p> <p>岡山県の吉備中央町では、これをNPO法人が売っている。取ってきた竹水をペットボトルに入れて凍らせて保存している。1本800円くらいで通信販売していることもある。吉備中央町では、竹水の採取を子どもたちと一緒にやっている。子どもたちもとても楽しんでいるようだ。</p> <p>吉備中央町の会長さんたちは竹水をどのように飲んでいるかという、毎日焼酎で割って飲んでいるそうである。実際、焼酎と割って飲むと一晩おいて竹のにおいもだいぶ飛んでいるので、甘みを感じるようになっている。だいたい4月から5月の半ばくらいまでがシーズンである。ぜひ挑戦されてみてはいかがだろうか。</p>	嶋田	5	神興
86	その他（活動）	<p>活動を進めるにあたっては、郷づくりの規模感というものもあるように感じた。また、事務局の負担が大きな協議会についてはやり方を変えていく必要があるのではないだろうか。それぞれの郷づくりのいいところなどを見つけながら、協議会同士の横のつながりを作って事業などを展開していくと前向きな活動が進められるのではないか。</p>	依田	6	－
87	その他（協議会と自治会の役割）	<p>協議会と自治会の違いを明確にしていくためには、協議会がイベントや自治会と似たような活動だけではなく、事業的な活動にも取り組んでいくということが一つのポイントになるのではないか。</p>	嶋田	2	－
88	その他（協議会と自治会の役割）	<p>事業の実働部隊はNPOなどのいろいろな団体を巻き込みながら、協議会で動かしていくことが必要である。また、自治会のかたがたは地域との連携の橋渡しや合意形成の際の中心として動いていただく。このような役割分担ができるように、自治会活動の負担を軽減する仕組みが大事なのではないかと思う</p>	嶋田	2	－

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
89	その他（協議会 と自治会の役割）	自治会と協議会の関係性についてだが、自治会はすでに様々な仕事をしている訳だからそこに協議会から仕事が降りてきて負担がかかるようにしてはいけない。協議会が活動するに当たって地域の協力は不可欠だが、仕事をお願いするのではなく、合意形成の場や活動の周知・徹底に関わってもらおうということがベースで、仕事内容が自治会と協議会で重ならないようにすることが重要である。	嶋田	3	神興東
90	その他（協議会 と自治会の役割）	郷づくりのあり方について反省点のひとつとして「防災と福祉の観点から組み立てている」ということがあると思う。大切なことなのだが、これを軸にしたことで、自治会との区別がつかなくなってしまったのではないかと考えている。防災と福祉は対面の人間関係ができあがっていないと機能しないので、自治会を中心としながら協議会がバックアップする取り組みは良いのかもしれないが、その活動が郷づくりの本丸ではないと思う。福祉は重要ではあるが、自治会の延長線上のような活動になってしまうと、自治会との違いが分からない。	嶋田	3	神興東
91	その他（協議会 と自治会の役割）	福祉は重要ではあるが、自治会の延長線上のような活動になってしまうと、自治会との違いが分からない。島根県の方言で「まめなかね」とは「元気にしていますか」という意味で、水道検針を請け負って、検針時に「まめなかね」と声を掛けている。広報紙は自治会が配布しているケースは多いので、協議会と自治会の活動の差が付きにくいかもしれないが、雲南市のように自治会とは違う形での取り組みができたらいのではないだろうか。この地域の自治会加入率は結構良い数字だと思うが、一方で85%の加入率なら15%は加入していないということになるので、水道検針は全世帯を対象にしているという違いがある。未加入者も対象にしながら、内容に新しさがある取り組みをやっていくと違いが出てくると思う。	嶋田	3	神興東

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
92	その他（協議会 と自治会の役割）	雲南市では、「地域おせっかい会議」という取り組みを行っている。例えば、編み物が得意なおばあさんの作品を展示する機会がないので、おせっかいをしておばあさんが活躍する機会をつくろうと考えて、地域の人たちが集まって、おばあさんの特技を生かすためにはどうしたらいいかと意見を出し合って、イベントを仕掛けている。このような取り組みを雲南市では協議会のような地域コミュニティ組織と連携して行っている。見守りだけの取り組みだけではなく、一人ひとりの個性を生かして課題解決を図りながら、人と人との繋がりをつくっていくような取り組みをしていくと、自治会と協議会の活動の違いが出てくるのではないかな。	嶋田	3	神興東
93	その他（協議会 と自治会の役割）	何かをする時は協議会で勝手にやってしまうと地域から反発を受けることがあるので、自治会の合意を得て一緒にやっていくというのが良いが、自治会の独自性が強い地域では、それはそれで結構だと思う。福祉や防災は面識のある範囲の方が機能しやすいので、自治会での取り組みを生かしていけば良い。協議会は自治会ができないような居場所づくりや事業にシフトしていくといいのではないかな。他の地域は自治会と協議会が混じり合っているのでやりにくいということもあるが、逆に上西郷地域ではやりやすいと思う。逆に自由にできるのではないかな。協議会は自治会がしていないことをやっていくことで、自治会未加入者でも参加できて、新しい人との繋がりをつくっていくということも良いのではないだろうか。	嶋田	3	上西郷
94	その他（協議会 と自治会の役割）	協議会でやるレベルのものと自治会でやるレベルのことをしっかり区分けすることは重要なことである。対面で付き合っていくということも自治会レベルでやっていくことかもしれない。 協議会レベルでやっていくこととして、同じ松林の清掃でもやり方に工夫ができるかもしれない。 鹿児島の日置市では、桜島の火山灰で地域が困っているのので、参加費千円で「スポーツ灰集め」というイベントを行っていて、これが大人気で参加者が殺到している。このレベルになると町内会・自治会での実施は難しい。このようなやり方だと協議会でないとできないと思う。 協議会でやることと自治会でやることの区分けを間違ってしまうと協議会の負担も増えてくるし、自治会の負担が増えてしまうこともあるかもしれないので、その仕分けをしっかりとやっていくということが重要である。	嶋田	5	宮司

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
95	その他（個人情報）	<p>個人情報のことについてはなかなか難しいところもあるが、島根県の雲南市では水道検診を引き受けていて、これは安否確認も兼ねている。その時に必ず声掛けをしている。地域の方言で「元気ですか」を「まめなかね」と言うので「まめなかくん」という取り組みの名称になっている。</p> <p>そのような仕組みを取り入れることができるのであれば、回りながら安否確認をしながら「今度敬老会があるので、自治会に情報を伝えてもいいか」などを聞いていくという方法もあるかもしれない。</p> <p>個人情報は本人が提供を承諾すれば出して構わないので、別ルートで情報を収集していくのはありなのではなかと思う。</p>	嶋田	5	神興
96	その他（郷づくり計画）	<p>協議会の活動は地域によって差はあるが、イベントに関わるようなことが多いようにも見受けられた。もう少し「このようなことを実現するためにはこれとこれが必要だ」というような形で、散発的な活動ではなく、継続的に地域を良くしていくような事業的な活動の実施や必要性についても盛り込まれるとより良いのではないだろうか。</p>	嶋田	2	—
97	その他（郷づくりの活動）	<p>社会福祉法が改正され、社会福祉法人は税制優遇を受けていることを踏まえ、それに見合った形で地域に貢献する公益的な活動をしなければならないことになっている。</p> <p>福岡市などでは、社会福祉法人がもっている車両が空いている時間があるので、運転手と車を出し地域の移動支援に協力するという取り組みをしているところがある。そのような連携をされると移動問題は緩和できるかもしれない。</p>	嶋田	5	神興
98	その他（郷づくりの活動）	<p>野菜や果物を買うと重たくなるので、人力で運ぶのはきつくなる。そのようなこともサポートしてもらえると良いのではないかと思った。</p> <p>スーパーが遠くても出張販売があれば買い物の選択肢が増えると思う。</p>	三ツ橋	5	神興

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
99	その他（郷づくりの活動）	<p>先ほどもお話ししたが、移動支援を組み合わせるといいかもしれない。</p> <p>福岡市西区の元岡がやっている取り組みは社会福祉法人から10人乗りくらいのバンを何台か出してもらって、このような集会所に一旦集まって1時間くらい社会福祉協議会の人や消費生活アドバイザーに来ていただいて、体操をしたり詐欺の注意喚起に関するお話を聞いたりしたりしてから、皆で買い物に行っている。買い物中は自由時間で、カートを押しながら参加者が「どんな料理をするのか」とお互いに会話をしている。帰りは原則、集まった集会所に帰ってくるのだが、家の近くで降ろしてくれるなどの柔軟な対応を取っている。</p> <p>社会福祉協議会との連携もあるようなので、このように移動支援とセットでやっていると良いと思う。</p>	嶋田	5	神興
100	その他（自治会の活動）	<p>自治会の持続可能性を高めるためには、活動をまとめることや間引くなどの取り組みが必要であると考えます。会議の日程を一つにまとめるだとか、行事にしても例えば運動会をやる時に、種目に避難訓練や防災訓練の要素を取り入れたような応急担架リレーを行ったり、炊き出しを行ったりすることで、活動を重ね合わせて省力化を図っていくことも必要だと思う。協議会の場で活動内容を洗い出していく「これは一緒にまとめよう」などといった仕分けをしていくことで、自治会の負担を軽減していくことが大事なのではないか。</p>	嶋田	2	-
101	その他（自治会加入促進）	<p>自治会加入について、多くの人はどこを足掛かりにすればいいのかわからないし「やるのがたくさんあるので自治会に入ると忙しそうだ」「仕事が忙しいので、自治会に入ると大変そうだ」と自治会加入を敬遠している人が私の周りにもたくさんいらっしゃる。今あるものを必要なものとそうでないものとに整理していくことと、どのようにそれを作るのかということはあるが、自治会に少し入りやすくなるための双方の接点づくりやきっかけづくりが必要なのではないかと感じた。</p>	中川	2	-

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
102	その他（自治会 加入促進）	<p>自治会加入については、どこの自治体もとても困っていることなのだが、紙1枚のお願いベースでやっていること自体をまず改める必要があると思う。</p> <p>自治会はあくまで私的な団体で、憲法上は集団結社の自由が認められていて入らない自由もある中で、どこまで認められるのかということはあるかもしれないが、他の自治体でやっていることは、お願い文書ではなくて各会社と協定を結び、入居の時には自治会への加入を条件付けるということである。これは微妙なところではあるが、嫌ならばそこに住まなければいだけであって、住むかどうかの選択権は相手方にあるので、そこまではギリギリ許容できるのではないと思う。実際にそのようなことをやっている自治体もある。だからやっぱりお願い文書だけで終わってしまうのは、ちょっと弱腰かもしれない。福津市として、他の自治体も調べていただいて、検討してもらいたい。</p> <p>自治会加入推進条例を設けている自治体もあるが、法律的に言うとこれは微妙なところである。ただ、間接的に会社と協定を結んでいくということぐらいは構わないと思う。会社として入居する際は自治会加入を必須としていただくことは、あくまで会社と転入者の民間関係の話であって、そのような条件付けは可能となる。それを間接的に促すべく、会社と協定を結ぶことは法的にもギリギリセーフだと思う。ただし、そこに絶対住まないといけない人がかつ選択権のない人に対してそれをやってしまうと違法と判断される可能性がある。</p>	嶋田	5	宮司
103	その他（自治会 加入促進）	<p>【協議会】</p> <p>自治会加入の促進については行政の事務方でも検討する必要があると思う。</p> <p>他の自治会でもそのことに踏み込んでいるところは結構あると思うので、ぜひ検討してほしい。</p> <p>【事務局の回答】</p> <p>自治会加入のチラシは自治会へお渡ししているが、今おっしゃったようにせいぜい何十部しかお渡しできておらず、あとは市の公式ホームページからダウンロードしていただくようお願いしている。市としても自治会加入は推進していく立場なので、対応は検討したい。</p> <p>また現行のチラシは「自治会はこのようなものなので、ぜひ加入しましょう」という内容にとどめているのだが、転入者のから「自治会に入りたくない訳ではないが、どのようなことをしているのか分からない」というお尋ねや「どこが自分事なのか見えにくい」という声を聞くことがあるので、自治会が自分にどう関わっているかが分かるようなものを作っていこうと、作成に取り組んでいる資料もある。</p>	嶋田	5	宮司

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
104	その他（自治会 加入促進）	<p>他の自治会で郷づくり推進協議会のようなものを立ち上げるのにお手伝いをしたことがあるのだが、マンションに住んでいる人たちが何で自治会に入らないのか、マンションに住んでいる人たちにヒアリングしないといけないのではないかと聞いてみたことがあった。マンションの人にヒアリングすると「怖い」というセリフが出た。自分たちはまだ数年しか経っていないから何十年も住んでいる人たちやまちづくりに対して何かを言うと「お前たちはまだ数年しか住んでいないのに偉そうなことを言うな」と言われるのではないかと、自分たちは新参者なので古参の人たちにもものを言うことはできないと言っていたので、自治会長がとても驚いた。</p> <p>その他にも男性が多いので女性が発言するチャンスがないということで、女性のかただけを集めて話し合いをしたこともあった。女性の話を聞くといろいろな自治会の会合があるが平日の昼間にやっているケースが多く、そのような時は当然出られないし、平日の夜でも子育てをしていたり、夕食の準備をしたりしているので、時間帯や曜日の関係でなかなか参加しにくいという話があって、どうすればよいか考える場を作った。</p> <p>マンション住まいの場合は管理組合の組合長がそのまま組長になれるケースがあるので、組合長ではない人が「自治会長や郷づくりの会長とはだれなのか。組合長が全部やっているので全く分からない」という人たちがたくさんいらっしゃる中で、肩書のないかたがいかに地域の人たちとつながるチャンネルを持つのが重要なのではないかと思う。</p>	山口	5	宮司
105	その他（認知 度）	<p>インスタグラムやSNSなどをかなり活用されているということだが、これらを有効に使っていくためにはネットワークと接続させることが重要である。例えば大学生のグループに投げれば、その中で広がっていくことがある。広報に当たっては、ネットワークとどうつながっていくのかということが大切。</p>	嶋田	5	福間
106	その他（認知 度）	<p>SNSはやったほうが良いのではないかと思うが、これ以上の広報は難しいと思うので、そのもの自体を手段として広報活動につなげられないだろうか。例えば小学校の全学年に「郷づくりのことを地域の皆さんになかなか分かってもらえないので、どうやったら分かってもらえるか、保護者の人にも聞いてアイデアを出してほしい」とお願いする。そのために取材を受けたりすることで、小学生が「協議会ではこのようなことをやっているのだ」ということが分かる。さらに保護者にも子どもたちが相談するので、保護者も郷づくりの活動が分かる。このようにお困りごとを解決するための形をつくって、広報をしてしまうという方策は有りうるのではないだろうか。</p>	嶋田	5	宮司

番号	柱	提案内容・意見	発言者	会議 (開催回)	視察地域
107	その他（認知度）	<p>一般的な傾向としては移住者がなかなか自治会に入ってくれないケースが多々あると思うが、逆にこの10年から15年の間、風光明媚な土地柄や宮地嶽神社などの歴史に惹かれて移り住んできたかたはたくさんいらっしゃって、まちの取り組みに参加したいという人も相当数いらっしゃるというイメージを持っている。</p> <p>移り住んできた世帯が10世帯あったとして、9世帯が地域に関心がなかったとしても1世帯くらいはいろいろな活動をしたという世帯がある。そうであれば、そのような人たちとどのように接続するかが大事だと思っている。</p> <p>移住者のかたに子育てなど地域のことやまちづくりに協力したいという思いを強く持たれているが、どこに行けばいいのかと入口が見えないとおっしゃっているかたもいる。</p> <p>イベントをたくさんされていて、お祭りにも何千人と参加されるとのことだが、お祭りの中だとなかなか会話をするという機会がないと思うので、日常の中でどれだけ会話をするチャンスがあるかが大事だと思う。</p> <p>そのためには窓口で会話をするタイミングをたくさん作るということが大切だと思う。</p> <p>提案なのだが、例えば移り住んできたかたで誰かとなつなりたい、困っていることがあるというかたはコミュニティセンターにいつでも遊びに来てくださいというアナウンスをされるのはいかがだろうか。そうすることで「あそこに行けばいろいろなことを教えてくれる」ということになり、役所の窓口とは違うコミュニティの窓口を作ることにつながるのではないかと思う。</p>	山口	5	宮司
108	その他（理念・活動）	<p>協議会の活動のポイントになるのが、事業活動や継続的な事業の実施である。例えば、子どもの預かり保育のようなことをやりながら地域に仕事を作っていくということが考えられる。また、高齢化が進み人手不足になっていくとこれまで自治会でやっていたことができなくなっていくので、それをカバーしていくこともある。基本的にはこの2つが協議会の役割なのではないか。協議会の役割として、自治会だけではやりにくいことをやっていくということがあると思うが、単純な自治会活動の延長線上だけの活動では、自治会と協議会の違いが分からなくなってしまふ。これまで自治会がやっていたことでも、角度を変えて広げていく、人と人を結び付けていくきっかけにしていこうと、協議会でやっていくべきだと思う。そうならないためには自治会ではできないこと、自治会だけではやりにくいこと、事業的な活動に取り組んでいくことが重要である。</p>	嶋田	3	神興東